

【看護研究グループ】

看護研究をテーマに意見交換を行った。

参加者からは、「研究をしたいという思いはあるが、何から始めればよいかわからない」「症例やテーマはあるものの、研究方法がわからない」「臨床疑問を研究課題へ発展させることが難しい」といった悩みが共有された。

研究を進めるための方法として、大学教員や大学院修了者など研究経験のある人へ相談すること、看護協会等が主催する研究に関する研修へ参加することが提案された。また、研究テーマの整理や研究計画の作成段階から医師へ相談し、多職種の視点を取り入れながら進めることの重要性についても意見が挙げられた。

さらに、研究活動の第一歩として学会発表に挑戦することが勧められた。本学会は研究経験の少ない看護師にとっても参加しやすい環境が整っており、発表を通じて自身の実践を振り返る機会となることや、多くの参加者から意見や助言を得られることの意義が共有された。また、学会ホームページには研究活動に役立つ情報が掲載されており、積極的に活用することが推奨された。

そのほか、教育委員会への参加や論文を読む習慣を身につけることも研究活動の支援につながるとの意見が挙げられた。日頃から論文に触れることで研究的視点を養い、自施設の実践を客観的に捉える力を身につけることの重要性についても共有された。

今回のディスカッションでは、看護研究に対する不安や課題を共有するとともに、研究活動を始めするための具体的な方法について意見交換を行うことができた。看護研究は特別なものではなく、日々の臨床で感じる疑問を探究することから始まるものであり、本学会が研究活動への第一歩を後押しする場となることが期待された。